

## 平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成28年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第2学年	国語	188人	社会	188人	数学	188人
	理科	188人	英語	188人		

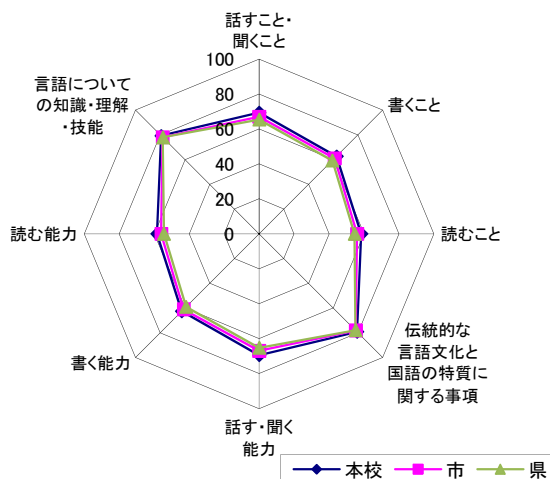
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	69.4	67.0	65.3
	書くこと	62.6	61.1	59.2
	読むこと	58.4	56.0	54.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.3	78.2	78.0
観点	話す・聞く能力	69.4	67.0	65.3
	書く能力	62.6	61.1	59.2
	読む能力	58.4	56.0	54.5
	言語についての知識・理解・技能	79.3	78.2	78.0



## ★指導の工夫と改善

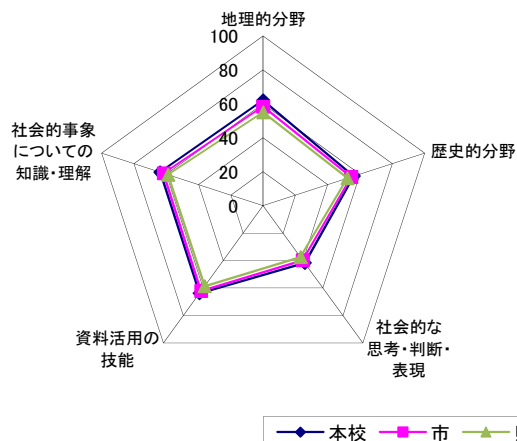
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○県・市、いずれの数値と比較しても良好な数値を示している。特に、話し合い活動の「司会者として話し合いの進め方を工夫する」に関しては90.7%の正答率であった。 ●「自分の考えとの共通点や相違点を整理して聞く」に関しては、県が38.1%、市が40.5%、本校が42.1%で、全体的に低い正答率になっている。	・発言する際に、聞き手が理解しやすいよう、様々な工夫ができるよう指導していく。 ・実際のコミュニケーションにおいても「効果的に自分の考えを伝えるための工夫」するよう指導していく。
書くこと	○県や市のポイントを1.5～3.5ポイント上回る結果であった。特に、「題材のとらえ方などについて2つの原稿を比較する」では7ポイント上回った。 ●「目的に応じて推敲する」の2題に関して、1題が県や市を3～5ポイント上回ったのに対し、もう1題は逆に2ポイントほど下回る結果となった。	・自分の考えや思いを、授業はもちろん日常生活においても文章で書き表すことを指導していく。また、教科の垣根を越え、他教科や道徳、総合の時間でも、自分の考えを文章で表現する学習活動を積極的に取り入れる。
読むこと	○県や市のポイントを2～4ポイント上回る結果であった。特に、「接続詞の果たす役割」や「描写を踏まえた登場人物の心情をとらえる」では81～87%の正答率であった。 ●「話し合いを基にして要旨を記述する」においては、県が26.5%、市が27.8%、本校が32.2%と、全体的に低い傾向が見られた。	・筆者の考えや主張を正確に読み取ったり、登場人物の人物像を押さえることを不得意としている生徒がいる。文章中の表現や描写、キーワードに着目させる指導を繰り返していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○県や市を1ポイントほど上回る正答率であった。漢字の読み書きに関しては、6題のうち4題が82～99%の正答率であった。 ●漢字の読み「請け」に関しては51.4%にとどまり、県の平均を0.8ポイント下回った。歴史的仮名遣いや漢字の成り立ち、文節の分け方に関しても、県の平均を僅かに下回った。	・小学校6年生～中学校1年生で学習する漢字の読み書きを、授業の中で繰り返し確認する。 ・古典教材の学習においては、音読を繰り返し行い、歴史的仮名遣いをきちんと習得させる指導を行う。

# 宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	62.1	58.4	55.0
	歴史的分野	56.1	54.6	52.2
	社会的な思考・判断・表現	41.8	39.8	37.5
	資料活用 of 技能	63.8	62.3	58.7
	社会的な事象についての知識・理解	63.8	61.7	59.0



## ★指導の工夫と改善

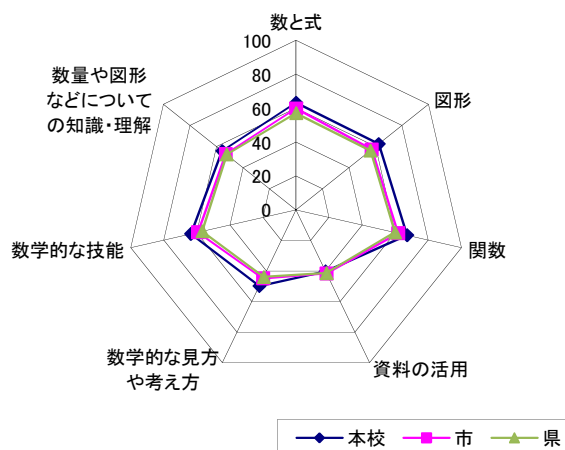
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「世界の地域構成」では県の正答率から9.1ポイントも上回っている。</p> <p>●全体としては県の平均を上回っているものの、「世界の諸地域(北アメリカ州)」の項目の正答率は43.2%とやや低い傾向であった。</p>	<p>・世界各地の人々の生活と環境の領域は、写真などの資料を扱うこともあり、興味を持ちながら学習をすすめている生徒が多い。しかし、資料を判断するという項目になると、正答率は下がる傾向がある。資料の活用 of 力、さらに判断する力をつけるため、資料を多面的に考えさせたり、判断させたりする機会を増やしていく。</p>
歴史的分野	<p>○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「縄文時代～古墳時代」の項目では72.5%と比較的高い正答率となっている。</p> <p>●「鎌倉時代～室町時代」の項目では県、市、いずれの平均正答率も下回った。中世の政治に関する短答式の問題で無回答率が35.0%であり、県や市よりも10%以上高い傾向がみられる。</p>	<p>・中世を苦手とする生徒は多く、それを反映した正答率になってしまった。特に、出来事を正確に把握し、それを順番に並べるという項目は多くの生徒が苦手とするところである。今後は重要な人物や出来事について正確に理解させ、復習テストなどの機会を利用して、その整理を図っていく。</p>

# 宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	63.2	59.8	57.0
	図形	62.4	57.1	56.1
	関数	67.2	61.8	59.8
	資料の活用	40.2	41.6	41.4
観点	数学的な見方や考え方	49.8	44.9	43.9
	数学的な技能	63.6	59.4	56.8
	数量や図形などについての知識・理解	55.8	53.0	52.3



## ★指導の工夫と改善

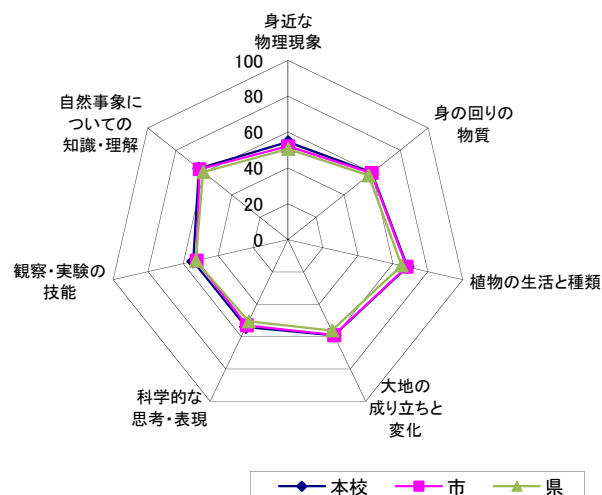
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に「正負の数の計算」では97.8%、「比例式を解く問題」では91.3%という高い平均正答率となっている。</p> <p>●「数量関係を不等式に表す」では56.5%、「1次方程式を立式する」では41.3%と、県、市を上回っているが、正答率60%を割っている。</p>	<p>・数と式では、正負の数の計算や1次式の項をまとめる。1次方程式を解くなど基礎的な計算を得意とする生徒が多い。しかし、等式、不等式を立式するのが苦手とする生徒が多いため、文章を数式に置き換えるための反復学習や学び直しの時間を設ける。</p>
図形	<p>○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っているが、特に「正四角錐の体積の体積を求める」では77.2%という高い平均正答率となっている。</p> <p>●「垂線の作図」では54.3%、「円柱の側面積を求める」では52.2%、「立方体の表面上の最短距離を展開図に作図する」では53.3%と、県、市を上回っているが、正答率60%を割っている。</p>	<p>・柱や錐を見取り図で認識することはでき、体積を求めることはできているが、立体を展開図で認識が不得意な様子なので、具体物を見る、触れるなどの実体験をさせる。</p>
関数	<p>○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に「反比例の関係について正しい説明を選ぶ」では88.0%、「反比例の式に適したグラフを選ぶ」では77.7%という高い平均正答率となっている。</p> <p>●「与えられた点とy軸について対称な点の座標を選ぶ」では37.0%と、県、市を上回っているが、正答率60%を割っている。</p>	<p>・関数の領域では、どの設問においても県、市を大きく上回っている。これからも式、表、グラフを関連付けて考え、問題解決ができるための指導を続けていきたい。課題としては、対象についての学び直しの機会を設ける。</p>
資料の活用	<p>○分野全体として県、市を下回る結果となってしまった。「ヒストグラムに関して正しくない文章を選ぶ」では48.9%と決して高くはないが県、市を2ポイント上回っている。</p> <p>●「条件を満たす階級の階級値を求める」では市の平均正答率よりも5.1ポイント、「条件を満たす階級の相対度数を求める」では市の平均正答率よりも3.7ポイント下回っている。</p>	<p>・資料の活用における、用語(階級値、相対度数など)の定義や算出方法が定着していないためこのような結果であったと思われる。反復学習とともに、実生活の中での有用性を示しながら定着を図りたい。</p>

# 宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	54.4	52.1	50.5
	身の回りの物質	59.7	59.6	57.4
	植物の生活と種類	68.3	67.8	64.9
	大地の成り立ちと変化	59.3	59.1	56.3
観点	科学的な思考・表現	54.1	53.1	50.6
	観察・実験の技能	54.3	52.4	52.7
	自然事象についての知識・理解	63.5	63.1	60.5



## ★指導の工夫と改善

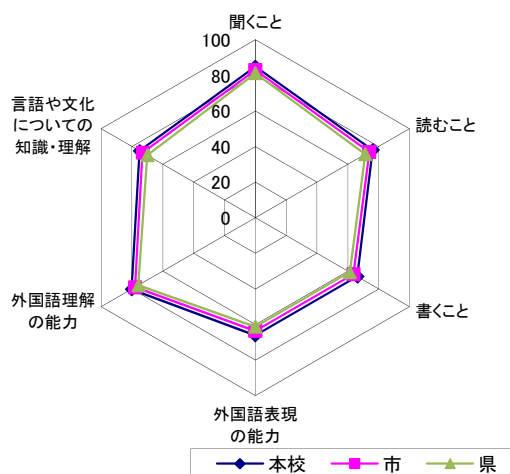
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	<p>○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「光と音」に関する反射光の道すじを予測する問題では82.6%と高い平均正答率である。市平均との比較でも10.1ポイント上回っている。</p> <p>●「音の波形を比較し、その高さや大きさを説明する問題」では、23.4%と低くなっている。また、それを含めた音の性質の問題では、40%台と低い。昨年の平均正答率57.5%と比較しても低くなっている。</p>	<p>・モノコードなどの実験とオシロスコープの波形とを比較させるなどして、音の高さや大きさと振動数や振幅との関連を考えさせていきたい。知識を、単なる暗記ではなく、他の知識との関連に着目させながら定着させていく授業を展開していきたい。</p>
身の回りの物質	<p>○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「密度の大きさから、物質の浮き沈みを推測する問題」では77.7%と高い平均正答率である。昨年の平均正答率54.0%と比較しても良好である。</p> <p>●「水溶液中の溶質の様子を表す粒子のモデルを推測する問題」では、県平均を5.8ポイント上回っているものの、32.6%と低い。</p>	<p>・モデルを使って考えるなどの抽象的思考を苦手とする生徒が多いと考えられることから、実験・観察の結果をモデルなどで考えさせる授業を展開していきたい。</p>
植物の生活と種類	<p>○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「対照実験の結果から、植物のはたらきを考察する問題」では、県の平均正答率を9.9ポイント上回っている。この分野は、他の分野と比較してポイントが高い</p> <p>●「葉脈などの特徴から植物を分類し、その理由を説明する問題」では、県平均を5.6ポイント上回っているものの、35.9%と低い。全体的に、他の出題形式と比較して、記述式の問題はポイントが低い。</p>	<p>・植物は身近に実物があるので、これまで通り様々な体験や観察を通して、実感をともなう授業をしていきたい。学習した知識どおしや知識と実物を結びつけて定着できるように取り組んでいきたい。</p>
大地の成り立ちと変化	<p>○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「火山と地震」に関するマグマの性質と鉱物や火山の形に関する問題では県や市の平均を大幅に上回っている。</p> <p>●「火山と地震」に関する花こう岩の成り立ちを説明する問題については、市平均を5.9ポイント下回って平均正答率が30.4%、「地層の重なりと過去の様子」に関する地層の堆積物の様子から海の深さを推測する問題については、県平均を6.2ポイント下回って33.2%と低い。</p>	<p>・モデルによる再現実験や実物の観察を通して、岩石や地層のでき方、気圧がなぜ生じるかなどの知識を、実感とともに理解し定着できるような授業をしていきたい。また、これまで通り実際の地層や地震に関する資料から読み取る活動を行い、知識を活用する力を伸ばしていきたい。</p>

# 宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	85.0	82.9	81.2
	読むこと	76.1	73.9	71.2
	書くこと	66.1	63.6	61.2
観点	外国語表現の能力	66.1	63.6	61.2
	外国語理解の能力	80.3	78.1	75.9
	言語や文化についての知識・理解	75.1	73.2	70.1



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○平均正答率は85.0%と県の平均を3.8ポイント上回っている。対話の要点を聞き取る問題の正答率が高い。</p> <p>●対話の内容を聞き取り、その場面に応じた英文を答える問題になると正答率が落ちる。</p>	<p>・今後も導入部でのWarm-Upや普段の授業の中に英語での英問英答を増やしていく。</p> <p>・グループワークでのフリートークの機会を増やしたり、スピーチを聞く活動を多く取り入れるなど、適切な英答力を養える場面を授業に多く取り入れる。</p>
読むこと	<p>○平均正答率は76.1%と県の平均を4.9ポイント上回っている。長文において、代名詞の指す内容を理解したり、適語を補充する問題では正答率が高い。</p> <p>●長文に加え、グラフを用いた資料から情報を読み取る問題の正答率が低い。</p>	<p>・今後もReadなどのまとまった英文を読み取る際は、代名詞の指し示すものを明確にしながら読み進める。</p> <p>・長文の内容をより理解するため、要約文に適語補充をしたり、また、それを発展させて自分自身で要約文を作るような活動を取り入れていく。</p> <p>・長文に加えて、資料を読み取る問題では補助教材を用いるなどをして、情報を一つ一つ吟味していく力を養っていく。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は66.1%と県の平均を4.9ポイント上回っている。会話文の応答など短文で答える問題での正答率が高い。</p> <p>●条件英作文では正答率が38.0%と低い結果となった。</p>	<p>・基本文を定着させるために、一つの文法において様々なパターンの表現を指導する。</p> <p>・まとまった英文を書く機会を、スピーチを定期的に行うなどをして増やす。自由英作文ではなく、テーマに沿った英作文をさせることにより、多彩な表現や文法を身に付けさせていく。</p>

## 宇都宮市立豊郷中学校 第2学年生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

#### ★調査結果から読みとれる傾向

##### 1. 学習について

●質問項目(10)から約60%の生徒が学習塾や家庭教師の学習支援を受けており、市・県を上回っている。しかし、家庭学習をまったくしていない生徒及び30分以上で1時間より少ない生徒は、市・県の結果よりも多い。また、塾などでは、学校の勉強でよく分からなかった内容を学習するよりも、より進んだ内容や難しい内容を勉強する傾向にある。平日・土日の塾・家庭教師を含んだ学習時間も、市・県よりも若干少ない傾向が見られる。

○学習意欲や探究心に関する質問項目((16)や(17)・(18))では肯定的回答が市・県を3~10ポイント上回っており、本やインターネットを利用しての情報収集((19))や普段の読書活動((11)や(12))も市・県と同じかやや上回る傾向が見られる。

●授業中の話し合い活動に関して、積極的な取り組み((25))の質問項目で、市・県を7ポイント下回った。この傾向は、授業への集中度((33))や発言しやすいクラスの雰囲気((34))の質問項目で、市・県を2~3ポイント下回っていることと関連しているかもしれない。

○教科の学習に関して、理科で「将来への必要感」((96))は市・県を3~6ポイント上回っており、授業内容の理解度((79))や教科学習への好感度((84))で11~14ポイント市・県を上回った。

##### 2. 学校生活について

●学級内での自己有用感に関する質問((41))で、肯定的回答が48.9%で、市・県の結果を4~6ポイント下回った。しかし、自分に対する自信に関する質問((53))では、市・県の結果を1~3ポイント下回ってはいるが、肯定的回答は69.0%で、それほど低くはない。

##### 3. 家族との関係について

●家族との関係性に関する質問((62)・(65))では75%以上の肯定的回答があった。しかし、家族との会話内容を分析すると、学習に関する会話((67)81.5%)に対して、将来・進路に関する会話((63)67.4%)が少ない。

#### ★今後の指導上の工夫

##### 1. 学習について

①宿題の意義((15)87.0%)は感じているものの、「やりたくなる内容か」の問い((14))に41.8%しか肯定的な回答をしていないことから、宿題・課題の内容を充実させる必要があると思われる。

②家庭学習への積極的な取り組みを促進するために、学級担任の日常的な日記指導や定期テスト前の学習計画指導を通じて、自主的・計画的な家庭学習を促す。また、学級担任による学習支援として自主学習ノートの提出や、効果的な学習法の相互紹介なども生徒の家庭学習の充実に寄与すると思われる。今後は放課後等における学習支援についても工夫していく。

③授業中の話し合い活動に関しては、小集団での話し合いの導入やエクササイズ的な基本訓練などを行うなど、その充実に取り組むと有効であると思われる。また、生徒の理解度や意欲が低調な教科については、各教科で更に詳細分析を行い効果的な対策を講じる必要があると思われる。今後とも、効果的な話し合い活動をさらに取り入れていくよう、各教科で研究していく。

##### 2. 学校生活について

①学級を中心に集団内での人間関係がより親和的になるような取り組み・働きかけを行うとともに、生徒自身が自分の取り組みの意義を実感できるような働きかけや評価を心がける。今後とも自己有用感を高めるための指導の工夫について学校全体で取り組んでいく。

##### 3. 家族との関係について

①生徒と家族との関係性がより広範に深まるように、生徒の日常的な取り組みへの賞賛や生き方・進路に係る話題を学級通信や保護者会・三者懇談等で学校から提供していく。